まち

日本共産党 にちなん地域 しんぶん 2005年5月12日 NO.37 発行・日本共産党日南町支部 住所・日南町神戸上2558
電話・FAX 83-0645 ホームページ http://www1.ocn.ne.jp/~kushiro/ Eメール yasu2001@sirius.ocn.ne.jp

被爆60周年 いま、核兵器の廃絶を

核不拡散条約(NPT)再検討会議 国連(ニューヨーク)要請団

ニューヨークの国連本部では、5月2日から27日までの会期で、核不拡散条約(NPT)再検討会議がはじまっています。

この会議の要請団に、日本共産党の久代安敏議員は、日本原水協(原水爆禁止日本協議会)の鳥取県代表として参加し、全国830名の代表とともに、アメリカ各地で交流し、「いま、核兵器の廃絶を」と訴えました。

このたびの要請団に久代議員は、県西部から寄せられた3000筆をこえる「いま、核兵器の廃絶を」の署名をトランクにつめ、NPT再検討会議前日の5月1日には、ニューヨークの国連本部からセントラルパークまでの3・2キロをデモ行進しました。

秋葉・広島市長や伊藤・長崎市長、被爆者の坪井さんらを先頭に、4万5千人の人の波となったデモ行進。

「NO NUKES! NO WARS!」(核兵器も戦争もやめろ)のアピールが、ニューヨークのマンハッタンにひびきました。(文・写真 久代安敏)

NoMoreHIROSHIMAS NAGASAKIS(広島・長崎を繰り返すな)の横断幕を先頭に、ニューヨーク市内を平和行進する日本原水協の要請団。
(写真・上 5月1日)

国連本部からセントラルパークまでの3.2キロの平和デモ行進。秋葉忠利・広島市長(左)と伊藤一長・長崎市長(右)は、沿道の市民に、時には語り、時には歌い被爆地の願いを伝えていました。
(写真・右 5月1日)

NPT再検討会議

1970年に発効した核不拡散条約(NPT)で決められた事項が遂行されているかどうかを点検するため、同条約第8条に基づき、発効から5年ごとに開かれている会議。NPTは、67年1月1日より前に核爆発装置を製造、爆発させた5カ国以外の国が核兵器を保有することを禁じると同時に、第6条で核軍縮のために「誠実に交渉を行う」ことを核保有国に「約束」させています。前文は、「核兵器の製造を停止し、貯蔵されたすべての核兵器を廃棄」することを「希望」すると述べています。

「いま、核兵器の廃絶を」

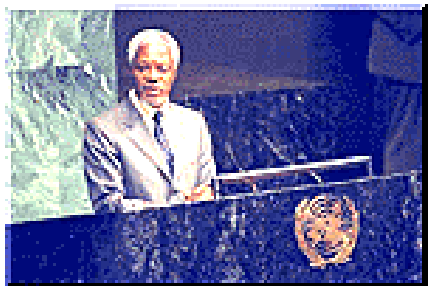
署名500万を突破

セントラルパークで開催された平和大集会では、秋葉・広島市長や伊藤・長崎市長が核廃絶をアピール。

日本原水協の高草木事務局長は、NPT再検討会議にむけて全国から集められた署名は、５０３万８１０８筆になることを報告しました。（**5月1日・セントラルパーク**）

セントラルパークには、凶弾に倒れた元ビートルズのジョン・レノンのメモリアル「イマジン」があります。

ジョンの妻オノ・ヨーコさんは、５月４日国連総会議場で、「第二次世界大戦中、東京で空襲に遭い、焼夷弾のなかを防空壕に逃げました。いまも続く核兵器開発は地球を汚すもの、廃絶を」と訴えました。（**5月3日**）



5月2日に開会したNPT再検討会議の開会挨拶でアナン事務総長は、「一挙に数十万の人々を死に追いやり、貧困を増大させ、核の平和利用さえ無意味としてしまうような、今日の核をめぐる事態を各国は真剣に見なければならない」と指摘し、「この脅威をとりのぞくために各国は政治的駆け引きをやめて、「核廃絶こそ唯一の安全保障」と力説しました。

長崎原爆のプルトニウムを生産した

ハンフォードの核施設・共同墓地を視察

放射能被害とたたかう現地住民と交流

はじめてのアメリカ大陸は、西海岸ワシントン州最大の都市シアトル空港。そこからバスで約4時間、南東へ約350キロにあるハンフォードに到着し、現地で放射能汚染の被害とたたかっている平和団体の活動家に案内していただいてハンフォードの核施設群や核の犠牲となった人たちの共同墓地を視察しました。

長崎に投下された原爆のプルトニウムを生産したハンフォードの核施設群は広大で鳥取県の約半分の面積（1520平方キロ）もあります。

アメリカの核戦略体制の下、1943年から1987年まで、約55トンの兵器用プルトニウムを生産し、89年からは、40年以上に及ぶ生産活動で生まれた放射性物質や化学物質による膨大な汚染の除去作業に取り組んでいます。

しかし、地下に埋められている放射性廃液量は、チェルノブイリ原発事故時の放射能の4倍以上といわれており、広島・長崎への原爆投下のような爆発によらない核汚染が広がっていることを痛感しました。

「1991年の湾岸戦争で米軍が使用した劣化ウラン弾の後遺症で苦しんでいる」と語る元米軍兵士と（**4月28日・シアトル**）

ハンフォードの核施設周辺で放射能被害により亡くなった人たちの共同墓地（**4月28日**）